

日本看護歴史学会

会報

日本看護歴史学会
第25号
1996年10月1日

第十回日本看護歴史学会

大会を終えて

平塚 朝子

夏も終わりに近い、八月二三日、二四日に、全国各地から皆様をお迎えし、記念すべき第十回日本看護歴史学会大会を、山形で開催できましたことを幸せに思っております。

初めて地方で開催するということもありまして、準備委員会を組織し、山形県、山形市、山形県看護協会から後援を得て、代表幹事をはじめ分科会担当者、研究発表担当者と連絡を密にしながら準備を致しました。

この度の学会大会をふりかえって、感想も含めながら述べて見たいと思います。

今年のメインテーマは「歴史にみる女と男」で、講演Ⅰでは「平安朝の女と男」と題して、女性史研究

家の服藤早苗さん、講演Ⅱでは「荻野吟の史料による歴史の研究方法」と題して、代表幹事の亀山美知子さんから講演をいただきました。

講演Ⅰでは、千年前の男と女の関係について、史料に基づき内容も豊富で分かりやすく、楽しく話を聞くことができました。

もともと歴史的にみれば、男と女の共同社会であったものが、男と女の関係が役割分担になって来たのは、平安朝からであること。平安朝の結婚の形態、夫婦別姓であったということを知くに、夫婦の別姓が論議されている昨今を思うと、時代の違いを感じてしまいます。

歴史は繰り返す、といわれますが、今まさに男女共生社会をめざ

して、世の中が動いているような感じがするのは私だけでしょうか。渡辺淳一の「花埋み」を読み、荻野吟が女医を志したきっかけや男性社会のなかで、悪戦苦闘しながら女医になった物語りに、ひたすら感動していた私ですが、講演Ⅱを聞き、物語りとは違った史実が、解き明かされていく過程がとても興味深く、歴史研究とは事実を確認する作業で、新たな発見ができた時の喜びや感動があり、ますます歴史にのめり込みそうな自分を感じます。

また、歴史研究に造詣の深い服藤早苗さんと、亀山美知子さんによる「歴史研究をめぐって」と題して対談が行われました。お二人の経験を通して、歴史研究の神髄にふれたような、満足感を味わうことができたと思っております。研究発表は例年になく多く六題ありました。それぞれに興味深い演題で、発表者の熱意が伝わってきました。しかしながら、研究内容が豊富であるため、予定の時間を大幅に超過してしまっただけで、今後の会の運営の検討課題でもあります。

また、研究発表並びに分科会の追加史料、発表形式（スライド、OHP、ポスター等）も、会場の準備や経費の都合上、事前に把握する必要を感じております。

分科会については、参加者の研究や興味のある分科会に出席できたことや、今年も講師・助言者の参加があり活発に討論されました。各分科会からの報告と、金子光さん、服藤早苗さんからの助言は、今後の歴史研究を進める上で、多くの示唆が得られ参考になったのではないのでしょうか。

学会大会を終了して、とても残念なことは、一般の参加者が少なかったことです。事前の広報の在り方や、工夫が必要であったことを反省しております。

それでも、出席した人からは、歴史研究の意義や、内容の奥深さ史実の重要性などを、学ぶことができたとか、看護職の大先輩の声をじかに聞き感動した、などの感想を聞くことができました。

地道ではありますが、会員の皆様そして、今回参加いただいたお一人お一人から、口コミでこの学会の「良さ」が伝わり、多くの仲間参加が得られるようになることを、を期待しております。

皆様には遠いところから、みちのく山形までおいでいただき心から感謝申し上げます。山形はいかがでしたでしょうか？

来年の学会で、また皆様とお会いできますことを楽しみにして結びたいと思います。ありがとうございました。

第一〇回大会報告

代表幹事
亀山 美知子

本会設立一〇周年を記念する大会は、初の地方都市での開催となった。山形県および山形市の助成金を得たこと、遊学館の確保では本会々員平塚朝子氏ほか、同地の保健婦グループ「十五日会」の諸姉の全面的な御援助に対し、心より感謝するとともに、山形県、山形市及び同地の看護協会等、山形大学医学部看護学科教官各位の御協力についても紙上を借りて御礼を申し上げるものである。

さて、今大会では、先にアナウンスした通り、メインテーマを『歴史に見る女と男』として、ゲストには総合女性史研究会の服藤早苗氏に「平安朝にみる女と男」と題して御講演を頂いた。従来は、兎角、近代以降の講演が多い中で、初の中世史（平安後期）について氏の研究成果の一端を聴講することが出来たのは幸いであり、会場からも大変好評であった。

会員総会では、このところ懸案事項となつている会費収入の大幅な落ち込みに対する処置が提出さ

れ、意見聴取後、本会予算中の大会費の援助金五万円の支出を停止することです承された。

次いで、提案事項として幹事会より提出した「特別会員制度（仮称）」の導入について諮ったところ、山本捷子氏他一名の反対意見および、細井志乃氏他二名の賛成意見が出されたものの、結果的には「会則の一部の改訂」として、今後幹事会で検討することになった。尚、「特別会員制度（仮称）」は、対象を基本的には、看護史に関連して、従来より、看護界に多大な貢献された諸先輩の方々を対象とすることで、会員の歴史研究に資するところ大と認める。

また、会報で予告した通り、本会の事業として、来年の「保助看法五〇年」に合わせて『日本看護歴史学会編・戦後五〇年史（仮称）』の刊行の準備のため、特別編集委員会の設置を行なう。すでに会報で提示した九名の諸姉の中から確認を急ぐこととする。その後、執筆の項目を確定した上で、執筆者の選定を行う予定。

前記の件に関して、編集委員会より、会員諸姉に執筆依頼のあった時には御協力をお願いする次第である。尚、編集委員もまた執筆者たり得るとする。

第10回大会収支決算書
(山形県・市)

収入の部		単位：円	
科目	決算額	備考	
参加費	336,000	会員50人非会員45人学生5人計100人	
大会総会費	50,000	本部からの繰入	
補助金	220,000	山形県 100,000 山形市 100,000 山形県看護協会 20,000	
雑収入	106	預金利子	
合計	606,106		

支出の部		単位：円	
科目	決算額	備考	
賃金	0		
報償費	120,000	講演料@100,000×1人 分科会助言者謝礼20,000×1人	
講師旅費	54,500	服藤25,000円金子23,000円 結城6,500円	
講師宿泊費	15,363	服藤4,067円金子11,296円	
食糧費	64,989	講師、助言者等食事代 23日昼食17,680円 24日昼食27,810円 懇親会負担19,499円	
需要費	215,980	学会資料印刷代 148,000円 看板57,680円 会場花10,300円	
役務費	9,174	郵送料	
会場使用料	76,100	学会大会75,600円・準備会500円	
本部への返還金	50,000		
合計	606,106		

荒井幸子

日本看護歴史学会第10回大会
収支決算報告書

<収入>		(単位：円)	
大会参加費	336,000		
会員50名×3,000=150,000			
非会員45名×40,000=180,000			
学生3名×2,000=6,000			
補助金	220,000		
山形県 100,000			
山形市 100,000			
山形県看護協会 20,000			
懇親会参加費(3,000×53名)	159,000		
預金利子	106		
合計	715,106		

<支出>		(単位：円)	
講師・分科会助言者謝礼(2名)	120,000		
講師・分科会助言者旅費(3名)	54,500		
講師・分科会助言者宿泊費(2名)	15,363		
講師・幹事・世話人食事代	45,490		
会場使用料	76,100		
資料印刷代	148,000		
看板・会場花代	67,980		
懇親会	178,499		
通信・郵送料	9,174		
合計	715,106		

<差し引き残高> (単位：円)
0円

<累計残高> (単位：円)
前年度までの繰り越し金 692,832
本年度残高 0
累計残高 692,832

(次年度に繰り越し)
(会計 大平政子、依田和美)

